

科目名 Course Name	法学 Jurisprudence				ナンバリング No.	A1-015	
年次	1 年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	藤田 蘭丸						
連絡方法	C-Learning で対応、教室、非常勤講師室						
必修／選択	選択						
関連 DP	DP1,DP2,DP4						
授業の概要と 到達目標	【授業の概要】 本科目は、個別具体的な法・法律に基づき、法学の基礎的な物の見方について講義を行う。 【到達目標】 1. 社会生活を送る上で身につけておくべき法の基礎知識を習得し、自らの言葉で説明できる。 2. 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につける。						
授業の方法	講義形式で行うが、適宜パワーポイントやレジюмеなどの補助資料を使用する予定である。毎回リアクションペーパーを配布するので、質問や要望などがあれば提出をすること。						
学習成果	L01						
	L02	学生は法的思考を理解し、法律学習を行うための素養を修得することができるようになる。					
	L03	学生は社会現象を論理的に考え、自らの言葉で説明できるようになる。					
	L04						
課題に対する フィードバック	講義のなかで対応する。						
教科書／ 参考図書	【教科書】 池田真朗(編)『プレステップ法学〔第6版〕』(弘文堂、2025 年)ISBN:978-4335001604 その他参考文献については授業時に随時提示する。						
履修上の留意点 やルール等	授業は、法をめぐる実際の問題や、法に対する問題意識を深めるといった点を重視して行う。したがって、教科書全ての章や内容をまんべんなく取り上げる事は避け、重点をおいた項目、補足しておくべき項目について取り扱いたい。受講者は、講義と教科書の双方を活用して、法に対する理解を深めてほしい。毎回の講義に際しては、十分な自己学習と真剣に取り組むこと姿勢が強く求められる。授業で取り上げるテーマ、事例は受講者の関心や社会情勢等に合わせて柔軟に対応する予定であるため、授業計画を変更する場合がある。なお、成績評価の対象となるためには3分の2以上の出席を必要とする。 事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の 実務経験							

成績評価の方法と基準							
評価の領域	評価基準	学習成果の割合					
		L01	L02	L03	L04		
授業参加態度	毎回の授業時の提出物の内容や提出状況から判断する。		15	15			
レポート／作品	授業内容がふまえられているか、自分なりの学習成果が見られるかどうか等で評価を行う。		20	20			
発表							
小テスト	授業内容がふまえられているか、自分なりの学習成果が見られるかどうか等で評価を行う。		15	15			
試験							
その他							
合 計			50	50			

回数		授業計画
1	授業内容	授業案内
	事前・事後学習	法に関して、自身が関心を持っている問題や分野について考えてみる。
2	授業内容	民法(契約法)
	事前・事後学習	教科書の 17～29 頁を読む。
3	授業内容	民法(消費者法)
	事前・事後学習	教科書の 30～39 頁を読む。
4	授業内容	民法(不法行為)
	事前・事後学習	教科書の 40～52 頁を読む。
5	授業内容	民法(家族法)
	事前・事後学習	教科書の 53～67 頁を読む。
6	授業内容	刑法(犯罪と刑罰)
	事前・事後学習	教科書の 68～79 頁を読む。
7	授業内容	刑法(性犯罪関係)
	事前・事後学習	教科書の 80～87 頁を読む。
8	授業内容	憲法(統治)
	事前・事後学習	教科書の 88～103 頁を読む。
9	授業内容	憲法(人権)
	事前・事後学習	教科書の 104～115 頁を読む。
10	授業内容	会社法
	事前・事後学習	教科書の 116～127 頁を読む。
11	授業内容	労働法
	事前・事後学習	教科書の 128～138 頁を読む。
12	授業内容	国連と国際法
	事前・事後学習	教科書の 139～145 頁を読む。
13	授業内容	人権と国際法
	事前・事後学習	教科書の 146～153 頁を読む。
14	授業内容	法の解釈・法の種類
	事前・事後学習	教科書の 154～168 頁を読む。
15	授業内容	まとめと補足
	事前・事後学習	これまでの講義内容をまとめ、理解が不足している点を整理する。